

中野・大和田上地区座談会（第1回まとめ）

1 実施日時

令和6年3月22日（金） 18:00～20:00

2 参加者

同地区農地所有者（9名）、農業委員（1名）、農地利用最適化推進委員（1名）、産業振興課職員（4名）、農業委員会事務局職員（1名）、あさか野農業協同組合職員（2名）、さいたま農林振興センター職員（1名）、公益社団法人埼玉県農林公社コーディネーター（1名）

合計20名

3 内容

- ・あいさつ及び趣旨説明
- ・出席者自己紹介
- ・地域計画について
- ・農地中間管理事業について
- ・アンケート結果及び現況地図について
- ・ワークショップ
- ・口頭講評
- ・まとめ

4 ワークショップで地域農家の方から出た意見について

【現状、課題】

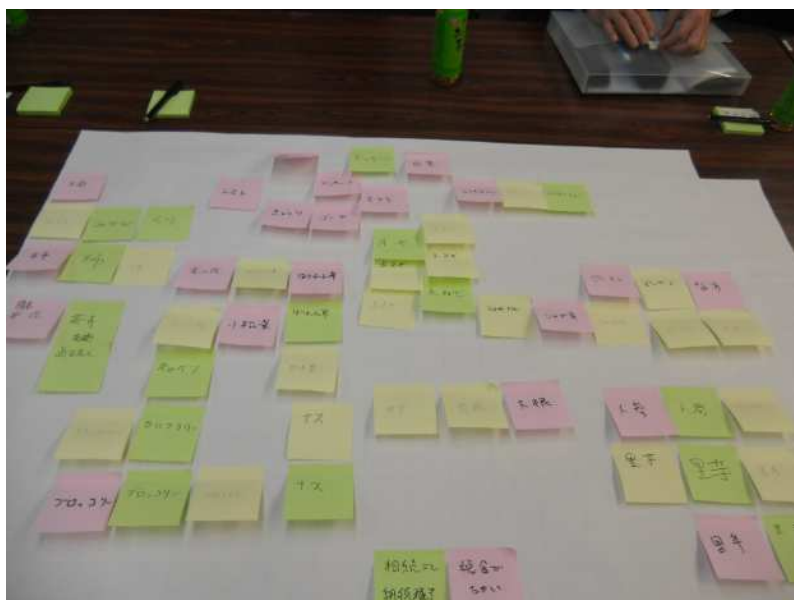
- ・税金が高い。
- ・（花き）集荷のための道を広くほしい。
- ・中野地区の地形は坂道が多く、大変。
- ・現状維持が精いっぱい（規模拡大できる人がいない）。
- ・市内の直売施設の充実が重要である。
- ・まとまった土地がないと効率的に露地栽培などはできない。
- ・野菜は生もので、長期間もたない、売り方が難しい。
- ・収入が少ない、収益化が難しい。このため、息子に農業を継承することを勧められない。
- ・地域計画座談会への参加者が少ない。
- ・農家はそれぞれ独立していて、つながりが薄い、他人任せな意識がある。



- ・後継者のいない農家が多数。
- ・農機などの初期投資が高額で、新規就農者が出てこない。
- ・代表的な農産物ということで例を挙げるよう言われるが、特徴的な取組はないと思う。
- ・白岡市では大手企業に勤めていた方が脱サラ後就農して、様々な取組を通じて法人化しているケース等習うべき事例もある。

【課題解決のための意見】

- ・新たな担い手を誘致するなら、農機等の初期投資が必要で、そこに補助するべき。
- ・企業誘致も考えるべき。
- ・市で売る場の確保や、PRなどのフォローをしてほしい。
- ・市からの補助金等のフォローも必要。
- ・若い農業者（4Hクラブ、青年クラブ）や、後継者のいない農家にも声をかけて参加させるべき。
- ・本日参加してみてもはじめて、大事な座談会だと理解した。周知方法に工夫をして多くの参加を得るべきである。
- ・市と農協が協力し、よく話合うことが必要。
- ・区画整理をすることも道路付けや集約化といった際に有効な方策ではないか。



5 口頭講評

さいたま農林振興センター

- ・ 次回は、貸したい人の地図も提示できるとよい。
- ・ 地権者に自分の問題として考えてもらう必要がある。

埼玉県農林公社

- ・ 新座は都心に近く、16万人の人口がある。若い農業者のやりたいこと、アイデアを出してもらって、特徴的な作物を集約、ブランド化する等16万人の消費者にアピールしていけたらよい。

あさか野農業協同組合

- ・ 計画を作ったことによってメリットがあるとよい。農地を集積する上で活用可能な補助制度等の創設を国県等に求めたい。
- ・ あさか野農協としても、地域計画の策定の重要性は認識しており、組合員への呼び掛け含めて関わっていく。

6 まとめ

【課題のまとめ】

- ・ 営農規模と販路について
- ・ 道路などのインフラ整備について
- ・ 機械導入について
- ・ 座談会への参加人数について

【次回に向けての方針】

上記の課題を解決していくため、次回の話し合いまでに各機関（市、農協）ができることを洗い出しておく。

また、今回出た課題について、参加者の皆様から、今回座談会に参加していない農家の方にも共有していただき、積極的に議論をしていただきたい。そしてぜひ、次の座談会にはご参加いただけるよう、声をかけていただきたい。